

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ～10 時
祈 祷 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)
●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 0 4 2-7 4 2-1 5 9 3

FAX. 0 4 2-7 4 2-1 3 9 3

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

0 0 2 9 0-4-8 0 7 0 7

3224 2026 年 8 月 30 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 15 主日)

司式者 井 殿 準
奏楽者 岡 野 和 美

前 奏		奏 楽 者
招 詞	詩編 29:1～2	司 式 者
讃 美 歌	1 1 「感謝にみちて」	一 同
聖 書	マルコ 12:28～34 (新 P. 87)	司 式 者
使徒信条	(9 3-4-A)	一 同
祈 祷		司 式 者
讃 美 歌	1 3 6 「わが魂黙して」(1～5 節)	一 同
説 教	「無視から無視へ」	司 式 者
祈 祷		〃
讃 美 歌	4 8 1 「救いの主イエスの」	一 同
献 金		〃
主の祈り	(9 3-5-A)	〃
頌 栄	2 6 「グローリア、グローリア、グローリア」	〃
祝 祷		司 式 者
答 唱	4 0-6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～		
報 告		司 式 者
讃 美 歌	9 2 「主よ、わたしたちの主よ」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨

「主の執り成しがあってこそ」

(マルコ 12:1～12)

イスラエルの民は神と共に歩むようにと選ばれていたが、神への背信を繰り返し、その度に神は預言者(しもべ)を送り、悔い改めを促した。しかし、預言者の多くは語る言葉を聞いてもらえず、かえって迫害を受けることがしばしばであった。そして今や、神から遣わされた神の独り子は、祭司長や律法学者たち(農夫たち)によって殺されようとしている。

たとえで告げられていた通り、主イエスはこの後人々に殺されて行くが、何故「農夫たち」は滅びを免れているのだろうか? 何故、不法、不正義が行われ続けている「ぶどう園」(神の創造されたこの世界)は、今なお世に存続しているのか? それは、主イエスの執り成しがあるからにほかならない。

農夫たちが為すべきだったのは、ぶどう園の実りを独り占めにすることではなく、憐れみ深い主人の思いに気づいて、主人の恩に報いることにほかならない。

我々は、しばしば神の恵みを忘れて、「恩知らずな農夫」のようである。しかし、我々はいつまでも「恩知らずな農夫」なのではない。子どもたちは、親がいかに自分に愛情を注いでくれているかを意識せず、そのことのかげがえのなさに気づくのは、ずっと後になってからのことだ。また、若い人々にとって、自分が生きていることは全く当たり前のことであるが、その若者も、大きな病気を患ったり、大きな災害を生き延びたり、次第に老いを感じて行く中で、「今日という一日を生かされている」ことの有り難さを実感するようになって行く。我々は、いつまでも「恩知らずな農夫」なのではない。教会に連なり、神に導かれながら、我々は、少しずつ神の恵みの尊さ、神の愛の有り難さを知るようになって行くのだ。

確かに、我々は罪を犯す。これから我々は神の忍耐、神の憐れみに縋らずにはいられない一人一人である。しかし、我々には執り成してくださる方がいる。主イエスは今も十字架の上で我々のために執り成してくださっている。我々は神から大きな大きな恩を受けている。そのことをおぼえて、その恩に応える歩みを我々はここから新たに始めて行こう。